

2月12日(土)

第1会場

15:00~16:00 ワークショップ

2階 講堂

心電図モニターによるデバイストラブル発見

【概要】

臨床の場において、デバイスのトラブルは、まず心電図モニター上に現れる。心拍に一致したビープ音によって気付く場合もあるが、ビープ音は期外収縮、自己心拍の発生でも影響を受ける。最終的には、紙に記録した心電図上で、デバイスと心臓、双方の動作時相関係の解析によって確認することになるが、トラブルの早期発見のためには、モニター上に表示される心電図パターンから判断できることが重要となる。

しかし、モニター上の心電図は常に移動しており、数秒間しか表示されない。したがって、この表示から異常を見つけだすには、いろいろな状況で現れる、様々な特徴的パターンとそれが有する意味について習得しておくことが不可欠となる。しかも、医師のみならず、患者さんに接する機会のある全ての医療スタッフが、これを習得しておくことが望ましい。

本セッションでは、上記を目標とし、臨床現場で採取された、様々なパターンを提示しながら、それが示す意義について解説して頂く。

〔座長〕 須藤 恭一 愛知医科大学医学部心臓外科

板橋中央総合病院心不全不整脈科 ○中島 博